

ベトナム子供基金通信 NO.1 (1995年12月21日発行)

ベトナム子供基金 : 113 東京都文京区本駒込 2-12-13

アジア文化会館内アジアセミナー室気付

TEL. 03-3946-4121 (代) FAX. 03-3946-7599

QUY HOC BONG LA XANH(ベトナム青葉奨学会) :

c/o TRUONG NHAT NGU DONG DU (東遊日本語学校)

43D/46 Ho Van Huc, Phu Nhuan, Ho Chi Minh City, Viet Nam

TEL. 453782 FAX. 454228

(9)

(9)

「ベトナム子供基金」は今年(1995年)6月3日に活動を開始して以来、12月17日現在で224名の方にご参加いただきました。ベトナムにおいても既に奨学金の支給がはじまっております。

遅ればせながらの第1号は「青葉奨学会」の近況と「ベトナム子供基金」の現状報告をお送りいたします。なおこの会報は、今まで「ベトナム青葉通信」(仮称)として進行状況などをご報告することがありましたが、主体をはっきりさせるために「ベトナム子供基金通信」という名前で発行することにしました。ご了承下さい。

青葉奨学会の活動内容 (ニューズレター「祖国の青葉たち」より)

青葉奨学会が子供たちに支給する奨学金には、次のようなA、B2通りの支給期間があり、それぞれ1年間=12ヵ月支給されます。

A : 9月から翌年の8月まで (ベトナムでは9月が学年度始め)

B : 1月から12月まで (海外の恩人の便宜のために設定)

1年間奨学金を受給した生徒について、青葉奨学会事務局が学校での成績などを基準として審査をし、その審査を通った生徒についてのみ、恩人の方々に奨学金の再支給をお願いすることになっていますが、翌年も継続支給されるか否かは、恩人の判断に委ねられています。奨学金は、毎月第1日曜日に直接生徒に渡されます。(地方にいる生徒に対しては、3ヵ月に1回郵便で送られます) その際、生徒は出席者の前で自分で学業成績を報告し、事務局は賞状を激励します。また奨学生は、キャンプや社会活動に参加することになっています。

(注 : 青葉奨学会や奨学生たちが「里親」を「恩人」と呼んでいるのをそのまま訳した)

奨学生の選択基準

1. 家が貧しく、学校の成績が優秀で、学校からの推薦を受けた生徒に限ります。推薦を受けた生徒に対して、事務局が調査をし、推薦書の内容を確認した上で決定されます。
2. 恩人からの奨学金の申し込みがあった場合、事務局を通して、奨学生に採用された生徒の学校の成績や家庭の様子などが記入された履歴票が恩人に送られます。
3. 奨学金を受けた生徒は、恩人に手紙や学校の成績の写しを送るなどします。

奨学金の支給額

(単位：米ドル)

	月 額	年 額
小学生	4ドル	48ドル
中学生	6ドル	72ドル
高校/大学生	8ドル	96ドル

この3年間の奨学生内訳

(単位：人)

学年度	1992~1993	1993~1994	1994~1995
小学生	53	71	119
中学生	13	24	52
高校生	17	12	25
大学生	1	7	14
合 計	84	114	210

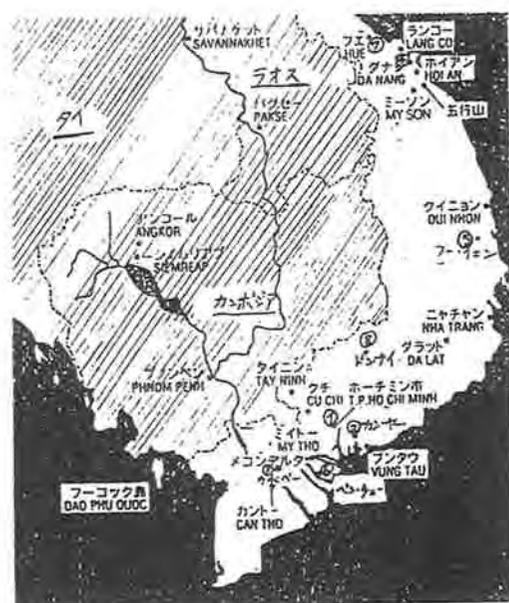
奨学金の支給状況

奨学生の人数および居住地域

1994年9月~1995年 8月 86人

1995年1月~1995年12月 124人

①	ホー・チ・ミン市	113人
②	カン・ヤー	40人
③	カイ・ベー	23人
④	ダ・ナン	15人
⑤	フー・イエン	6人
⑥	ベン・チャー	6人
⑦	フエ	5人
⑧	ドン・ナイ	2人
	合 計	210人



会計報告（注意：この数字には「ベトナム子供基金」からの送金はまだ入っていません）

		1994年	1995年
収 入	前年度繰越	121.0	484.0
	収入	6,682.0	12,282.0
	計	6,803.0	12,766.0
支 出	奨学金	5,879.0	6,405.0
	事務費	440.0	412.0
	計	6,319.0	6,817.0
今後の 支出予定	奨学金		4,850.0
	事務費		515.0
	計		4,865.0
支出合計		6,319.0	12,182.0
残 高	次年度繰越	484.0	584.0

（単位：米ドル）

「祖国の青葉たち」に掲載された2通の手紙

〈手紙1〉

私は、レ・ティ・テュエット・マイです。H先生、1995年8月までの1年間の奨学金、どうもありがとうございました。先生にいいニュースをお知らせします。3年生のときは優の成績を取りました。クラスでは1学期も2学期も1番になりました。でも先生の奨学金は、今年の8月で終わってしまうので、私は不安です。9月以降の1年間も奨学金を送っていただけないでしょうか。

私は母と二人きりで、教会に泊まって生活しています。母は足が不自由なので働くことができません。奨学金がないと、今年の9月からの4年生の勉強を続けられません。もし、先生にできないなら、他の人に頼んで私を助けてほしいのです。

私も先生のようなお医者さんになれるようにもっと頑張って、勉強したいと思っています。母を守りたいのです。貧しい、二人きりの親子ですから。

母は、いつも私の勉強のことを心配しています。奨学金がなければ、母は私に学校をやめさせるでしょう。私はとても悲しいです。以前は、母は足が悪くても、あちこちに物乞いをしに行き、もらったお金を貯めて、私が学校へ行くのに必要なお金を払ってくれました。

先生にこの手紙を書いていて、涙が出るほど悲しいです。私は母を誰よりも愛していますから。旧暦の月の15日、大勢の人がお寺にお参りする時は、母は私を連れて物乞いをします。もらったお金で、朝ご飯や食料を買ったりしています。去年、先生から毎月奨学金をいただくようになって、食べたかったものを少し食べられるようになりました。

私は、痩せていて、よく病気になりますが、母をはじめ、私を助けてくれる人たちがかわいがってくれるのを忘れないように、一所懸命勉強しています。毎月、奨学金を貰いにいくときには、セ・ラム(訳注：小型乗り合い自動車)で行きますが、帰りは母と一緒に歩いて帰ります。足が痛くても、母はなるべく歩くようにしています。その方がお金がかかりませんから。

先生に写真をお送りします。私が書いたことは、皆本当のことです。この手紙が届いたら、奨学金をまた送れるかどうか返事をください。待っています。この手紙に何か失礼なところがあったら、許してください。

先生とご家族の皆様のご健康とお幸せをお祈りします。

1995年6月3日 土曜日

レ・ティ・チュエット・マイ

イェン・テー小学校 クラス：3/1

【手紙2】

Aさん、お元気ですか。

私は、ホーチミン市のカン・ゾー県ビン・カイン高校の女子学生、フィン・ティ・バンです。私は1994年9月から1995年8月までの1年間の奨学金をいただいております。今までお礼の手紙を出すことができず、申し訳ありません。一度もお会いしたことはありませんが、どうか「恩人」と呼ばせてください。あなたはどんな方なのだろう、といつも想っています。ベトナムには「満腹のときのご飯一袋より、空腹のときのご飯一握り」という諺がありますが、あなたのお気持ちに私はとても感動しています。私の家族はいろいろな困難に直面しています。貧しい農民で、耕す田畑もなく、兄弟も多く、皆、失業状態です。私は親戚の家に寄宿して、勉強を続けています。いつも両親から仕送りしてもらっていた私にとっては、あなたの奨学金はとても大きな意味があります。

あなたと私は海を隔てて遠く離れていますが、私たちの感情を妨げるものはないと思います。世界中に愛情が満ちあふれているように感じています。奨学金を戴くことになって、とてもうれしかったのですが、同時にとても心配でした。それはあなたと先生方のご恩に報いることができるかということでした。一方、私の回りに沢山の心やさしい方々がいることで、将来への勇気が湧いてきました。

いつの日にか日本に行って、あなたが私の想っていた通りの人か、お会いしてみたいと思っています。また、あなたと日本人の方々の生活ぶりをこの目で見てみたいと思います。できたら、あなたの写真を送っていただけませんか。お体に気をつけて、あまり働きすぎないように、適度に運動もなさってください。いつか、あなたと先生方のご期待に応えたいと思っています。最後に、皆様のご健康とお幸せをお祈り致します。

1995年2月23日 ビン・カインにて

青葉奨学会の恩人並びに友人の皆様へ

奨学生およびその父兄に代わりまして、私たちは、ベトナムの貧しいけれども、素直で、優秀な生徒たちに対し、皆様から奨学金の支給その他数々のご支援、ご援助戴いたことに、心より感謝申し上げます。

皆様の奨学金は生徒たちに勉強の機会を与え、また貴重な励ましになっております。彼らが将来立派に成長し、国作りの人材になること、そして世界の各民族の友好の橋渡しになることを私たちは期待しています。

私たちの経験不足と人手不足さらに言葉の問題があるために、皆様との連絡を初め、会の運営においても不都合なことが沢山あったことをお詫びし申し上げます。私たちは今後一層努力することを誓います。

皆様とご家族のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

青葉奨学会事務局

青葉奨学会訪問記

市川珠美

(ベトナム子供基金運営委員)

7月16~23日、ホーチミン市を訪問した。初めてベトナムに行ったのは4年前のこと。今回は6月に発足したばかりの「ベトナム子供基金」のベトナム側の主体である「青葉奨学会」の活動を見学するのが目的である。

タンソンニャット空港もホーチミン市の街並みもずいぶん変わっていた。街に行く外国人も以前より格段に増えたと交通も変わった。4年前は自転車がまだ多かったが、いまではバイクが主流で、自転車やシクロは道の端に追いやられている。また、4年前は一家全員が1台の自転車に乗ってしまったような光景があちこちに見られたが、いまは規制が敷かれ、2人乗りまでが基本ルールとなっている。(子供を入れれば3人まで可能)交通は少し整理されてきている印象を受けたが、相変わらずミラーのついていないバイクのほうが多いし、無理やり道を曲がるし、ときどきぶつかってにらみ合っているし、歩行者はあくまでもマイペースで横切るし、という点は変わらない。

◆広がる経済格差

外国からの投資の増大に伴い、外国人用のホテル、オフィス、トレーニングジム、はてはエステなど、外国人を対象としたサービス業が増えていた。中でも街中を歩いている

ぐ目につくのは、レストランである。西洋料理のぴかぴかの看板、英語でのサービス、ビジネスランチをとる人達。その一方で心を傷めるのは、相変わらず物乞いが多いことだ。絵はがきやガムを売る子供達はどこでも見かけるが、それ以上に気になったのは体の不自由な方の物乞いであった。外国資本の企業に勤めるベトナム人が、かなりの高賃金を得るようになったいま、その富を享受できる者と、依然貧しくとり残されていく者と、大きな二極化が始まっているようにも感じた。そして、都市部と農村部の格差も急速に増加していることは想像にかたくない。

◆ドンズー日本語学校訪問

市内2ヵ所にあるドンズー日本語学校を訪問した。ディエンビエンフー通りに旧校舎が、そして12月に落成式を迎える新校舎はタンソンニャット空港の近くのフーニユアンにある。現在ホーチミン市にはいくつかの日本語学校があるが、ドンズーが最も大きい。門を入ると生徒達の駐輪場があり、生徒のほとんどがバイクか自転車で通学している。教室はそのまま中が見える。学生は10代後半から20代前半の人が中心であるが、中には40歳近い生徒も一緒に勉強している。授業は入れ換え制で、一つの教室の生徒数は10人から50人くらいで、日本の語学学校と比べれば格段に生徒数は多い。最近日本語は英語に次ぐ人気の語学だが、教師不足が目下の悩みの種となっているようだ。講師はベトナム人も日本人もいる。当然のことながら、みなさん日本語に堪能で、校内では日本語で用が足りるようだ。ベトナム人の講師の中には、日本に留学していた方も多い。

廊下を歩いていると、生徒達が話しかけてくる。「どこに住んでいますか?」「何歳ですか?」「お名前は?」皆、習った日本語を使ってみたくてしょうがないようだ。彼らが「是非教室に来て下さい」と誘ってくれたので、お邪魔する。教壇の前に立って、まずは自己紹介。彼らはそれを聞いて、ここでも質問の嵐であった。上級のクラスのように、先生はすべて日本語で授業を進めていた。もうすぐ日本に留学する予定の大学生もいた。生徒たちの日本への関心の深さを強く感じた。

校長のホウエ先生はいつもお忙しく、移動する先々で、待ちかねていたように携帯電話が鳴る。そしてその忙しい合間をぬって、新校舎の建築の現場指導までされる。校舎は広々としたコンクリート造りの明るい建物で、中には事務室、教室の他、先生方の宿舎、生徒の学習室、そして「ベトナム子供基金」の活動の拠点である「青葉奨学会」の事務所もこの新校舎の中にある。

◆子供の家庭調査への参加

「青葉奨学会」では、奨学金支給の審査の過程で、子供達の家庭訪問を実施している。学校からの推薦状、地域の役所の財政状況の証明書などが一緒に「青葉奨学会」に提出されているが、確かに奨学金を受ける状況にある子供であるかをここで最終確認している。また、随時、家庭を訪問し、家の状況の変化なども聞くようにしている。私もこれに同行

した。

マイちゃん（掲載の手紙1参照）は既に奨学金を受けている。彼女は奨学金の制度を知り、自分ももらうことができないかどうか、「青葉奨学会」まで一人で聞きに訪ねてきた子供である。家はなく、教会にお母さんと一緒に住まわせてもらっていた。お父さんは小さいときに亡くなり、お母さんと二人暮らし。お母さんは体が弱く、働くことができないので、近所の人洗濯物を引き受けて、わずかな収入を得ている。マイちゃんは足を引きずるお母さんの代わりに、小さな体で私達にイスを運んできてくれた。小さくてもお母さんをカバーするしっかり者である。芸術の成績がよく、奨学金のおかげで勉強が続けられるのをとても喜んでいて。

次に訪問した家は、今回の奨学金の申請者の家である。家の中には、オーディオセットが置いてあり、一見、決して貧しい家には見えない。事情を聞くと、親戚からオーディオセットを借り、これを近所の人に貸し出すことによって副収入にしているということであった。お父さんは建築作業の仕事をしている。小さな弟や妹が、訪問した私達のために、冷たい飲物を持ってきてくれる。ベトナムの子供たちは本当にしつげがしっかりしている。うれしいことに、彼はこの申請が通り、奨学金がもらえることに決まった。

勉強や資質の面で優れたところを持ちながら、家計が貧しいために、教育を受けることができない子供たちをバックアップしたい、そして、ベトナムを牽引する次世代のリーダーを育成したいと願うホウエ先生の熱い想いが小さな芽となって、ベトナムのあちらこちらで育ちつつあるのを実感した。

◆小学校見学

貧しい子供達のために政府が造った小学校が街中にあると聞き、見学した。道路に面しているこの学校は、一見するとカメラのフィルムやお菓子などを売っているお店屋さんに見える。中に入ると、1階の奥と2階が教室になっていて、古い机と椅子、黒板が置いてある。大通り沿いにあるので、車のクラクション、騒音が常に聞こえ、勉強に適した環境とは言いがたい。もちろん校庭や図書室などの設備や楽器などは全くない。授業料が無料でも、家の手伝いなどに時間をさかれ学業を続けることが困難な子供はまだまだ沢山いるという。

次に、ホーチミンからダラットへ行く途中のヒエップ・タン村に「青葉奨学会」が援助して校舎を建てた小学校へ行った。そこは大通りから横道に入ってすぐの所に位置していて、木々に囲まれ、とてもどかな所であった。30万円でできたというこの校舎は、30名くらいが入れる程のこじんまりした建物で、この教室ができたおかげで、今まで不足していた授業を、今後もっと増やしていけるそうだ。ちょうど夏休みで、子供達には会うことができなかったが、校長先生のお宅でお茶をご馳走になった。先生のお宅は学校と目と鼻の先にある。まさに自分の家の庭で子供達が勉強しているかのような。校長先生は「これからもホウエ先生にご協力下さるように日本の皆様をお願いをしたい」と語っておられた。

◆訪問を終えて

今回の訪問を通じ、最も心に残ったのは、ホウエ先生の情熱的なとり組みと、それを支えるベトナム人、日本人の両スタッフの真摯な活動ぶりである。「青葉奨学会」も「ベトナム子供基金」もホウエ先生を無くしては語れず、先生に信頼を寄せる人々によって支えられているのが大きな特徴と言える。ホウエ先生の活動・考えを広く多くの方に知っていただく機会を作ること、ベトナムに関心を寄せて下さる方々の善意やアイデアを、会員の皆様と一緒に実現していく窓口となることが私達の課題ではないかと痛感した。

ベトナム子供基金会計報告

表1 収支計算書 (1995年6月~11月)

収 入	金 額	支 出	金 額	
基金収入	4,121,000	基金送金	1,250,000	
利 息	71	経 費	125,348	
収入計	4,121,071	支出計	1,375,348	
残 高	0	残 高	2,745,723	
合 計	4,121,071	合 計	4,121,071	(単位：円)

表2 基金収入の内訳 (1995年6月~12月20日現在)

	一般基金	里親基金	その他の基金	合 計	
6月	156,000	240,000	29,000	425,000	
7月	72,000	520,000	53,000	645,000	
8月	36,000	240,000	260,000	536,000	
9月	12,000	20,000	0	32,000	
10月	12,000	120,000	0	132,000	
11月	468,000	1,860,000	23,000	2,351,000	
12月20日まで	96,000	840,000	32,000	968,000	
合 計	852,000	3,840,000	397,000	5,089,000	
人 数	56人	160人/1団体	12人		(単位：円)

表3 経費の内訳(1995年6月~11月)

(単位:円)

	郵送費	印刷費	国際通信費	文具代	写真代	送金手数料	合計
6月	19,280	6,999	1,118	15,795	0	0	43,192
7月	5,390	3,060	1,028	0	0	0	9,478
8月	1,950	1,700	4,444	1,449	2,873	4,500	16,916
9月	510	610	1,257	0	0	0	2,377
10月	8,380	3,320	1,468	0	0	0	13,168
11月	27,006	9,859	3,352	0	0	0	40,217
合計	62,516	25,548	12,667	17,244	2,873	4,500	125,348

〔表1〕 1995年6月から11月までの「ベトナム子供基金」の収支は上記の通りです。これまでに経費としての支出は、総支出の9.1%にあたる125,348円です。また、この表には出ていませんが、その後12月15日付で350万円を送金しましたので、現在までに計475万円が「ベトナム青葉奨学会」へ送金済みです。

〔表2〕 1995年12月20日までの基金収入について、内訳を見ると、金額では一般基金が17%、里親基金が75%、その他の基金が8%となっています。参加人数を見ると、里親基金が最も多く、次いで一般基金、その他の基金の順になっています。

〔表3〕 経費の内訳について見ると、月別ではこの基金の発足時である6月が最も多くなっています。また、10月末(関西地区は11月初め)に朝日新聞に紹介されたために、郵送費と印刷費が増えています。経費別では、多い方から順に郵送費・印刷費・文具代・国際通信費(FAX/TEL)・送金手数料・写真代となっていますが、文具代についてはこの基金の運営のための備品整備にその大部分が使用されているため、今後はそれほど多く支出されるとは考えられません。

奨学金の額は小学生4ドル、中学生6ドル、高校生および継続支給の大学生8ドルですから、日本円に直せば、1ドル100円として、年額それぞれ4,800円、7,200円、9,600円となり、ご寄付戴いた額の4分の1から2分の1です。それは先ず運営経費を用意しなければならないということがあります。また基本的に毎年更新するこの奨学金支給システムにも原因があります。ある奨学生が真面目に勉強して成績がよくても、里親側の事情で奨学金を来年継続できないことも珍しくありません。他にも、奨学生のキャンプや社会活動、今年6月のヒエップ・タン村のように小学校の校舎をつくるなど教育環境の整備のために、奨学金を支給した残りの部分は一般基金と合わせて積み立てられます。

「ベトナム子供基金」からの送金は、この12月3日に初めて、9月からの3カ月分が新しい奨学生たちに支給されました。これについての集計はまだ送られてきていませんので、この号にはご報告できませんでした。今後私たちはこの通信を通じて、皆様からの基金がどのように使われているかできるだけ詳しくご報告いたします。



こども達の家を訪ねて……

青葉奨学会で奨学生を決めるときに、成績証明書や学校の先生からの推薦状はとても大事な判断基準になります。さらに書類だけの判断だけでなく直接、生徒の一人一人を訪ねお父さん、お母さんそして家族のみなさんとお会いしてお話をします。こども達にとっても家族にとっても、奨学金をもらえるということはとても重要です。なぜならベトナムは日本と違って、経済的な理由でこどもを学校にやれない家庭がたくさんあるからです。

私もホーチミンで青葉奨学会のお手伝いをしていたとき、そうした家庭訪問に同行したことがあります。ベトナムは電話とか通信の手段がまだまだ不便です。日本でしたらちょっと電話をして先方の予定を確認し、訪ねることができます。けれどもベトナムでは直接足を運び、たまたま留守であったらまた時間や日を改めて訪ねます。そして、またまた留守でしたらまた出直します。そんなこともあってとても時間がかかります。

また家庭訪問といっても必ずしも訪問先が“家庭”とは限りませんでした。ある日、小学校5年生の女の子の家を自転車で訪ねる先生に同行したことがあります。両親は働きに出ていて留守でしたので、女の子に話を聞くために市場に向かいました。その子は学校が終わった後、市場で野菜を売る仕事をしていました。ネギ、レモン、トウガラシを少しずつ並べたザル一つがその子のお店でした。

とても暑い日で山積みとなったネギの傍らで、その子の家族のことや、学校のこと、将来のことについて話しました。両親には後日やっと会えたと聞いています。

その日はさながら“家庭訪問”ではなく“市場訪問”となりました。

訪問する先生は、その生徒の家庭の様子や両親の考えを知り、そしてこども達の将来のことを家族みんなと話合うことを目的としています。だから場所はどこでも良いのかもしれませんが、こんな風にして奨学生を選ぶ手続きが時間がかかりながらも先生方によって、慎重にも丁寧に進められていきます。。

ベトナムのこども達はだれもが家のお手伝いをとてもよくします。商売をしている家ではもちろんのこと、働くお父さんやお母さんを助け、家事や子守をします。ベトナム人は家族をととても大事にし、こどもが一人という家庭は少ないです。まだ4歳位の小さな子が、赤ちゃんの弟か妹かをだっこ紐でくくりつけて子守をしているシーンは珍しくありません。彼らに将来の夢を聞くと、お医者さんや学校の先生になりたいという願いがとても多いのに驚きます。一生懸命勉強をして、その夢をひとりでもたくさんのこどもが叶えてほしいものです。ベトナムの未来はこども達の手に乗せられているのですから。私もこども達を応援しながら、今日本でがんばって勉強し、たくさんの得がたい経験を積む毎日を送っています。

ゲン トゥイ ギア
NGUYEN THUY NGHIA

ギアさんは青葉奨学会のスタッフで、現在日本で日本語を勉強中です。ベトナム子供基金のアドバイザーとしていつもお力添えをいただいています。

「ベトナム子供基金」に参加されたみなさまの声

- ・私もなにかのお役に立てればと、はじめの一步を踏み出します。
- ・会がベトナムの子ども達の強い支援組織となりますよう、願っております。
- ・今春、ホーチミン市を訪れました。街はオートバイの騒音と建設ラッシュの工事の音と人々の熱気ですごいエネルギーを感じました。
白いシャツに紺色のズボン、赤いネッカチーフの通学路を急ぐ子供達、レストランの外で1回3000ドンの靴磨きで稼ぐ子供達…さまざまな思いが胸をよぎりました。
- ・現在0歳児の母であるため、フットワークはあまりありませんが、なにか出来ることがあればと思います。
- ・ベトナムと日本のかけ橋になるようなこれからのこども達に役立たせてください。
- ・最近のベトナムに関するニュースは景気の良い話ばかりですが、貧富の差が大きくなりとても心配です。大好きなベトナムに何等かの形で協力できたらいいなと思っています。
- ・ホウエさんの行動力に敬意を表します。がんばってください。
- ・私達は国語（日本語）の教員です。いつか東遊日本語学校の教壇に立てたらと思っています。
- ・「ベトナム子供基金」に出会えて、もう一つの生きがいがありました。
会の名称を“子供”から“子ども”に変えたらいかがでしょうか？
「供」は「従う」という意味もありますから—
- ・健康で仕事が続けることが出来る間、基金に協力させていただくつもりです。
- ・新聞記事を読み88歳になる母がいつまで続けられるか分からないけど協力できればと申しております。母の後は私が引き継ぎたいと思っています。
- ・高校3年生です。収入があるようになったら、里親にも協力したいと思っています。
- ・現地の実態を見ればもっといろいろ出来ることもあるかもしれません。
研修旅行等、定期的の実施できたらよいですね。
- ・他の活動の支援も行っているのでわずかですが、運営費にでもご活用ください。がんばって成功させてください。
- ・細く長く続けられればと思っています。
- ・子供達の様子が良くわかる「通信」をお待ちしています。
- ・土、日でしたら何かお手伝いできます。ご連絡ください。

※上記は申し込み書にお書きいただいたみなさまからのメッセージです。お断りすることなくここに記させていただきました。深くお詫びするとともに、会の意図をおくみとりいただき、ご賛同いただけましたこと、感謝いたします。

「ベトナム子供基金」今後の予定についてのお知らせ

1996年、2月18日(日曜日) 新年会

嚙)14時から 颯)アジア文化会館

ベトナムの正月(テト)の季節に合わせました。

委員が今年の夏ホーチミン市で撮影したベトナムの街、ホウエ先生からのメッセージなどの興味深いビデオ上映会等も、予定しております。会員の方の顔合わせの機会です。

詳しいことは後日改めてご案内いたします。

是非、ご予約に入れておいて下さい。

4月 お花見会

桜の美しい季節です。

1周年の総会をひかえ、情報交換、来年度の活動内容などを桜のもとで楽しく語らう会です。

6月 95年度、第1回「ベトナム子供基金」総会

会のスタートから1年です。

95年度収支報告、96年度活動内容を中心に、広く会の問題等を討議することを意図しています。

8月 ベトナムへのスタディー・ツアー

9月 実現度は未知数ですが、希望の方もおいでです。

10月 まずは予定に入れておきましょう。

12月 忘年会

1年の活動を振り返って……ベトナムのお酒で乾杯です。

※上記のような予定です。変更等もあろうかと存じますが、そのあたりはご了承下さい。

「ベトナム子供基金」の会員の皆様へお願い

子供基金の活動をスタートし、7ヵ月がたちました。会報の制作、ベトナムとの連絡、諸雑務など委員だけでは“手”が足りないのが現状です。

時、場所、内容はフレキシブルにして、お手伝いしてくださる方を募集しています。ご連絡お待ちしております。